

2023年4月25日

**CO₂排出量ネットゼロに向けた保有不動産を通じた取組みについて
～再生可能エネルギーの導入、CASBEE不動産評価認証の取得等～**

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、持続可能で希望に満ちた豊かな社会づくりへの貢献に向けて、環境保全・気候変動対策に向けた取組みやESG投融资等、事業活動のあらゆる面において地球環境との調和に努めています。

このうち、事業者・機関投資家の双方の立場から排出するCO₂排出量の削減に向けて、2022年7月に、「CO₂排出量ネットゼロへのロードマップ」^(注1)を策定・公表し、取組みを進めてまいりました。

今般、主要な本社機能が入居するビル3棟への再生可能エネルギーの導入等を行ないましたので、取組みの進捗状況についてご報告いたします。

■CO₂排出量ネットゼロに向けたロードマップの進捗状況等

1. 再生可能エネルギーの導入状況

(1) 主要な本社機能が入居するビル3棟への100%導入

CO₂排出量ネットゼロに向けた取組みのひとつに、Scope 1・2のCO₂排出量のうち約8割が事業活動で使用する電力由来であることをふまえ、保有不動産において使用する電力の再生可能エネルギー化を推進しております。

本社所在地である明治安田生命ビル（明治生命館含む）、明治安田生命新東陽町ビルおよび明治安田生命事務センタービルへの再生可能エネルギーの導入を進め、主要な本社機能が入居するビル3棟の使用電力量、年間約4,570万kWhをすべて再生可能エネルギーに切り替えました。

これにより、東京ドーム約8.5個分に相当する年間約2万トンのCO₂排出量の削減が見込まれます。

	CO ₂ 排出削減量
明治安田生命ビル（含む明治生命館）	11,733 t - CO ₂
明治安田生命新東陽町ビル	6,446 t - CO ₂
明治安田生命事務センタービル	2,351 t - CO ₂
合計	20,530 t - CO₂

【ご照会先】
広報部 広報グループ TEL 03-3283-8054

(2) 国の重要文化財「明治生命館」への再生可能エネルギーの導入

明治生命館は、1997年（平成9年）に、昭和期につくられた建造物としては初めて国の重要文化財に指定されました。オフィスとしての利用に加え、2022年10月には、静嘉堂文庫美術館をお迎えし、重要文化財である建物の新たな活用も進めてまいりました。

国民の貴重な財産である国の重要文化財「明治生命館」を次世代に引き継ぐと同時に、持続可能な社会の実現に貢献するため、2023年1月に「明治生命館」が使用する電力を100%再生可能エネルギーに切り替えました。



国の重要文化財「明治生命館」

2. CASBEE不動産評価認証の取得

今般、本社所在地である明治安田生命ビル（明治生命館含む）および、明治安田生命大阪梅田ビルにおいて、環境性能を総合的に評価するCASBEE不動産評価認証^(注2)で最高評価ランクである「Sランク」を取得しました。

両ビルとも「優れた省エネルギー性能・節水機能」を備えているほか、「高い換気・採光性能・昼光利用による良好な室内環境」（明治安田生命ビル）、「トップライトを取り入れた自然採光性能」（明治安田生命大阪梅田ビル）等が高く評価されております。

今後も建替物件を中心に第三者による環境性能評価を実施し、取組みの有効性を検証しながら、保有不動産の環境負荷低減に関する取組みを継続してまいります。

物件名称[所在地]	外観	評価ランク
明治安田生命ビル (明治生命館含む) [東京都千代田区丸の内 2丁目1番1号]		 Sランク ★★★★★

明治安田生命
大阪梅田ビル
[大阪市北区梅田
3丁目3番20号]



Sランク ★★★★★

3. 環境配慮型什器の導入（海洋プラスチックごみの回収・再資源化への貢献）

近年、海洋プラスチックごみ^(注3)による海洋汚染や生物多様性の損失が世界的な課題となっており、プラスチックを資源循環させる取組みが注目されています。

こうした流れのなか、海洋プラスチックごみ再生樹脂を使用したオフィス用品の開発実績のあるアイリスチトセ株式会社に、MYリンクコーディネーター（営業職員）が使用する椅子の開発を依頼し、2022年度に営業拠点4拠点到、海洋プラスチックごみ再生樹脂を使用したオフィスチェアを導入しました。

これにより、約88キロの海洋プラスチックごみの回収・再資源化に貢献するとともに、環境保全への具体的な貢献度が可視化され、従業員の環境保全に対する意識醸成にも寄与します。

今後も、環境保全に向け、環境配慮型什器の導入に継続的に取り組んでまいります。

【導入したオフィスチェア】

メーカー・品名	アイリスチトセ・クリストネスティングOBP
製品の特長	アイリスチトセの協業パートナーであるプラスチック再生業者が海洋プラスチックごみを回収し、TUV（テュフ）認証 ^(注4) を取得した工場で再生樹脂にリサイクルすることで、原料から製品化までのトレーサビリティと安全性を確保
海洋プラの使用量	1脚あたり約364グラム



(注1) 詳細は、2022年7月15日リリース「『CO₂排出量ネットゼロへのロードマップ』の策定について」参照 URL: https://www.meijiyasuda.co.jp/profile/news/release/2022/pdf/20220715_01.pdf

(注2) CASBEE (Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency/建築環境総合性能評価システム) は、建築物を環境性能で評価し格付けする手法で、省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮と、室内の快適性、景観への配慮等も含めた建築物の品質を総合的に評価するシステムです。CASBEEの一つである「CASBEE-不動産」は、国土交通省の支援のもと2013年より開始された認証制度で、竣工後1年以上の建物（オフィスビル等）を対象に「Sランク」、「Aランク」、「B+ランク」、「Bランク」の4段階で評価されます。

(注3) 沿岸50キロメートル以内の海洋で適正に廃棄処理・管理されていないプラスチック

(注4) 国際的な第三者認証機関である「TUV Rheinland (テュフ ラインランド、本社：ドイツ)」が、技術力や安全等を中立的に認証する制度

以上